

温故知新 ～ JNSA 15 周年に寄せて～

JNSA 理事
株式会社NTTデータ セキュリティビジネス推進室
セキュリティ・エバンジェリスト
西尾 秀一



JNSAは今年設立15周年を迎えますが、この間にITおよびセキュリティに係る技術、ビジネス環境、ならびに、人や組織は大きく変化してきました。

JNSAが設立された2000年前後を振り返ってみましょう。2000年と言えば、何と云っても2000年問題が話題となっていました。コンピュータシステムの不具合が社会に与える影響の大きさに、初めて世の中の関心が集まった出来事だったのではないのでしょうか。家庭への光回線であるNTTのBフレッツの試験提供が始まったのもこの年で(本サービス開始は2001年)、本格的なブロードバンドの普及が始まりました。モバイル系では、KDD・DDI・IDOの合併によりKDDIが発足し、Yahoo!モバイルがサービスを開始しています。また、今や当たり前のカメラ付き携帯電話が当時のJ-PHONE(現ソフトバンク)から初めて発売されました。

ネットワークサービス系では、Amazon.comが日本で初めてサービスを開始したのが2000年でした。当初は、国内最大のオンライン書店として話題となりましたが、今や書籍のみならずあらゆる製品を扱うオンラインショッピングサイトとなっています。前年の1999年にはYahoo!オークションが開始され、2ちゃんねるも立ち上がりました。ただ、このころはまだブログが主流で、いわゆるSNSはまだ始まっていませんでした。

セキュリティ関連では、情報セキュリティマネジメントの国際規格であるISO/IEC17799(現在のISO/IEC27000シリーズ)が初めて国際規格化されたのが2000年で、まさにISMS元年とも言える年です。ラックのセキュリティ監視センター(現JSOC)が設立されたのもこの年で、同年開催された九州・沖縄サミットの不正アクセス監視を担当して注目されました。セキュリティ専業会社であるNRIセキュアテクノロジーズやNTTデータ・セキュリティ(1999年設立、現NTTデータ先端技術)もこのころ設立されています。

振り返れば、この15年の大きな変化に対し、セキュリティ業界もユーザ企業も必死で食らいついてきたという感があります。2000年というITにとって大きなターニングポイントとなった年に生まれたJNSAが、これまで果たしてきた役割は決して小さくなかったと思います。IoTの普及やビッグデータの活用、そして2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックの開催へ向け、次の5年、10年、15年先のIT社会がどうなっているか、ワクワクしながら思いを馳せると共に、JNSAが今後果たすべき役割について、会員企業の皆様と大いに議論していきたいと思っています。